

吉濱洋典校長先生 ～ありがとうございました～

平成18年度から20年度まで、本校の校長を務めた吉濱洋典先生が、9月10日に御逝去されました。

当時の岐宿中学校は、学校が落ち着かず、生徒指導の問題がよく起きていたようです。学校を立て直すために先生が行ったことは、多々あるのですが、その一つが「岐中一步前憲章」の制定でした。この憲章は、校訓「理想開拓」を基に、岐宿中学校生徒の理想像を、生徒・保護者・地域の方々に意見を求め、集約したことで、皆の思いが詰まったものになりました。この「一步前」という言葉（精神）は岐宿中学校に脈々と引き継がれ、小学校や学校運営協議会でも大切にされている言葉となっています。

吉濱先生がよく言われていたことがあります。「子どもが悪くなつとは、子どものせいじゃなかと。授業をちゃんとせん先生が悪かと。子どもと向き合えん親が悪かと。見て見ぬふりする地域の大人が悪かと。子どもが悪くなつとはすべて大人のせい。子どもは何も悪うなか!」「あん子どもは挨拶できんとよく言うけれど、大人は、誰にでも笑顔でさわやかに挨拶できるとやろか?そう思うなら、大人が子どもに挨拶すればよか。子どもは自然に挨拶するごとなるよ。」「何か学校で問題が起きたときは、子どもを真ん中に据えて考えれば、自ずと答えは出てくるとよ。」

長崎県や五島市の教育委員会の要職を務め、福江中学校や翁頭中学校の校長としても活躍されました。退職後は五島日本語学校の校長として、グローバルな活動をされており、その活躍は新聞等でもよく紹介されていました。

岐宿中学校のみならず、五島市の子どもたちのために、ベトナムの子どもたちのために、力の限りを尽くされ、多大な功績を残していただいた吉濱洋典校長先生。「一步前」の精神は私たち岐宿中学校職員がきちんと引き継いでいきます。安心してください。

本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

第1学期学校評価

～規則正しい生活ができていない!～

1学期の学校評価の結果を裏面に掲載しています。私たち職員は、この評価を分析、考察し、2学期の学校経営はもとより、学年・学級経営、教科指導、生徒指導等に役立てていきます。評価への御協力ありがとうございました。

さて、生徒・保護者・教職員が一致して低い評価項目が1つあります。それは「規則正しい生活をしている」という項目です。子どもたちのスマホやタブレット、テレビなどのメディア使用の時間がとても長いことがわかっています。その一方、家庭での学習時間は短くなります。「家庭学習を計画的に取り組んでいる」の低評価（保護者2.8、教職員2.4）につながっています。子どもには危機感がないのでしょうか?3.5という高い数字になっています。

これから子どもたちが生きていく社会は、私たち大人が生きてきた右肩上がりの社会ではありません。単純労働はロボットやコンピュータがやってくれる時代がもうすぐ来ています。少子高齢化、変化の激しい国際情勢、エネルギーや環境問題等、課題が波のように次から次へと押し寄せてきます。

私たち大人に課せられている使命は、そういった世の中でも力強く生き抜いていく力を、子どもたちに身に付けさせていくことではないのでしょうか。10年20年先を見据えて、その時代に生きる子どもが、幸せでいられるように、適切に関わっていききたいものです。決して教員も親も「こん子は、いっちゃん勉強せん!」で終わらないようにしていきましょう。

まずは、子どもと話してみませんか。「どんな大人になりたかと?」

